



ステークホルダーとの対話

ステークホルダーに対する情報の適正な開示と、相互間の対話・協働に努めます。

お客さまとの対話

日本はもとより世界各国で、当社グループの製品やソリューションをご紹介し、より多くのお客さまと直接対話する機会を設けています。

2017年2月、高品質なトータルソリューションを体感していただく拠点として、「GLORY BRAND SQUARE」(東京ショールーム)をリニューアルオープン。「金融ゾーン」「リテールゾーン」「海外ゾーン」などのエリアごとに、最新の設置・運用シーンを再現し、よりお客さまに適したソリューションをご提案しています。また、プライベート展示会の開催や各種展示会への出展などを通じて、国内外のお客さまとのコミュニケーションを図るとともに、本社工場や埼玉工場へご案内し、製造現場を見学していただくことで、当社の生産体制や品質管理についての理解を深めていただいています。



GLORY BRAND SQUARE (東京ショールーム)



プライベート展示会「Glory Postal Solutions」(フランス)

株主・投資家との対話

当社は、迅速、正確かつ公平な情報開示によって経営の透明性を高めるとともに、建設的な対話を通じて、当社の経営方針や事業活動への理解につなげ、株主・投資家の皆さまとの長期的な信頼関係の構築に努めています。2016年度は、株主総会后に、2015年9月に完成した新工場の最新設備をご覧いただいたほか、機関投資家向け決算説明会や個人投資家向け会社説明会を実施しました。

また、ウェブサイト内に株主・投資家向け専用サイトを設け、四半期ごとの決算説明資料、株主さま向け報告書、アニュアルレポートをはじめとした資料を開示し、タイムリーな情報開示と利便性の向上を図っています。



株主さま向け工場見学会



機関投資家向け決算説明会

お取引先さまとの対話

お取引先さまは、高品質な製品を安定的に生産するための大切なパートナーであり、協力体制の確立が不可欠です。当社では、年に1回「お取引先懇談会」を開催し、当社グループの現況や戦略などをご説明しています。グローバルプロダクツ株式会社や光栄電子工業(蘇州)有限公司、GLORY (PHILIPPINES), INC.においても実施し、グループ全体でお取引先さまとの信頼関係の構築に努め、ともに持続可能な社会の実現に貢献していくことを目指しています。

また、お取引先さまに品質改善事例を発表していただく「品質向上活動発表会」や「基板品質方針説明会」などを開催し、お取引先さま間の情報共有を図る場として活用していただいています。



お取引先懇談会



品質向上活動発表会

社員との対話

当社では、2012年度より「社長と語る会」を開催しています。社長自らが理念や事業状況を説明し、経営幹部と社員がコミュニケーションを通じて相互理解を図ることで、経営活動に対する参画意識やモチベーションの向上につなげることを目的としています。2016年度は全国9拠点で実施しました。加えて、経営幹部が積極的にグループ会社を訪問し、社員と交流することで、グローバルグループ全体の一体感醸成につなげています。

また、2008年度より年に1回、当社で「社員のご家族向け会社見学会」を開催し、職場見学や社員食堂の利用、社長との交流などを行っています。会社や社員の仕事を身近に感じていただけるイベントとして、社員やご家族から好評を得ています。



社員のご家族向け会社見学会



GLORY (PHILIPPINES), INC.における社長講話の様子

第三者意見

「グローリーCSR報告書2017」を読んで

・トップによるコミットメント

報告書では、最初のトップメッセージの中で、国連のグローバルコンパクトや持続可能な開発目標(SDGs)にも言及し、強いトップのコミットメントが示されています。

グローリーでは現在、CSRのマテリアリティ(重要課題)の特定を進めていることも報告書に記載されています。GRIやISO26000といった国際的な枠組みに加えて、SDGsのターゲットを組み込み、それらを、事業を通じて実現することができれば画期的です。明確な目標設定と結果の評価は、グローリーの今後のグローバルな事業活動をより力強いものとするでしょう。事業を通して社会的課題を解決し、CSV(Creating Shared Value: 共有価値)を高めることで、事業の持続的成長が達成されるものと期待します。

・バリューチェーンと特集

「バリューチェーンにおけるCSRの主な取り組み」では、SCOPE1~3のCO₂排出量が新たに情報開示されました。2015年12月のパリ協定を受け、各国がCO₂の数値目標を設定している中で、グローリーも目標達成にコミットしようという表れであると読み取ることができます。このCO₂排出情報を用いて、環境効率率等の新しいKPIs(Key Performance Indicators)を設定し、向上させていくことも可能となるでしょう。

特集では、グローリーの顔認証技術について、その特長とともに、その技術が企業理念でもある「セキュア(安心・確実)な社会」の実現に貢献していることを、7つの事例を通して知ることができます。

・ガバナンス、品質、人材、社会貢献、環境の各取り組み

報告書では、ガバナンス、品質、人材、社会貢献、環境に関する昨年度までの取り組みの継続に加えて、多くの新しい取り組みも紹介されています。例えば、2016年度には、女性活躍推進のための

阪 智香 氏

関西学院大学学長補佐・
商学部教授・博士

現在、日本学術会議連携会員、日本
社会関連会計学会理事、日本経営
分析学会理事等。日本会計研究学
会学会賞等受賞。



行動計画の策定、社内保育所の開設、本社工場でのペーパーレス活動と使用用紙の6割削減、オランダにおけるCO₂排出量削減等を目的とした物流センター設立等が達成されており、活動や体制の一層の充実を読み取ることができます。

また、グローリーの社会貢献活動では、多くの社員がさまざまな地域活動に参加し、地域からも数多くの参加者を得ており、「良き企業市民」としての理想の姿を見ることができます。

・長寿企業として

グローリーは2018年に創業100周年を迎えます。筆者は、世界140カ国の全上場企業を対象に、サステナビリティを実現してきた創業100年以上の長寿企業について、過去30年間の財務データをを用いた研究を行いました。その結果、長寿企業では、利益率が大きくかつ安定していること、さらに、付加価値額も多く、それをステークホルダーに適切に分配することを通して、継続的な社会的貢献を果たし、ステークホルダー共生型マネジメントを実施していることが示されました。

グローリーは、社会との「共存・共生」という経営理念からも、まさにステークホルダー共生型マネジメントが実践され、約一世紀にわたり社会に貢献し続けてきたとすることができます。おそらく「CSR」という用語が生まれる前から積み重ねられてきた、その真摯で誠実なCSRの経験を生かして、どのような次の100年を仕掛け、飛躍を遂げるのが楽しみです。

第三者意見を受けて

阪先生には、昨年に引き続き、当社グループのCSRに対する貴重なご助言をいただき、誠にありがとうございます。また、当社の約一世紀にわたる歩みを高くご評価いただき、感謝申し上げます。

当社グループは、事業活動の実践を通して、持続可能な社会の実現に貢献していくことを企業理念として掲げております。今回、阪先生には、我々の次のステップとして、①SDGsのターゲット

をCSRの課題に組み込み、事業活動の中で課題解決を目指すこと、②CO₂排出情報を用いて環境効率率等の新しいKPIsを設定し向上させていくこと、などをご提案いただきました。

現在、当社は、重要課題の特定作業を進めておりますが、企業価値向上の観点からもご提案をしっかりと具体化し、今後も「セキュア(安心・確実)な社会」の発展に貢献できるよう取り組んでまいります。



グローリー株式会社
代表取締役副社長

三和 元純